

令和 元 年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 市政クラブ

伝票番号 12

代表者	経理責任者	支出年月日	区 分	
		令和 元 年 9月9日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費・ <u>事務費</u>	
支払先			支 払 金 額	
DCMホームマック湯川店			¥13,557	
摘 要（品 名）		数量	単価	金 額
事務用品		1	¥13,557	¥13,557

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

2019年09月09日（月）

領 収 証

市政クラブ 様

¥13,557-

上記正に領収しました（消費税等 1004円を含みます）
DCMホームマック湯川店
電話 0138-36-6761
但し

事務用品 元

担当者 

保管のお願い保管戴く場合は、印刷面を内側に折って保管願います 0002-8038-5830

明細

キャノン純正インク	@2,894 円 × 2 = 5,788 円
キャノン純正インク	@3,002 円 × 2 = 6,004 円
修正テープモノエアー	@257 円 × 2 = 514 円
ラベルシール マイタック	213 円
ラベルシール マイタック	213 円
ラベルシール マイタック	213 円
ゼブラ ハイマッキー	131 円
ゼブラ ハイマッキー	481 円

合計	13,557 円
----	----------

令和 元 年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 市政クラブ

伝票番号 13

代表者	経理責任者	支出年月日	区 分
		令和 元 年 9月12日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費・ <u>事務費</u>
支払先 株式会社 長門出版社			支 払 金 額 ¥3,000
摘 要（品 名）	数量	単価	金 額
南北海道市町村職員録	1	¥3,000	¥3,000

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）
【領収書等貼付欄】

領 収 証

№000556

令和 元 年 9 月 12 日

市政クラブ様

金額

千 百 拾 万 千 百 拾 円
¥ 3 0 0 0

但し 南北海道市町村職員録
上記の金額正に領収いたしました。



株式会社

長門出版社

代表取締役 富田 秀嗣

本 社 函館市日乃出町11番13号 TEL 0138 (53) 2461
FAX 0138 (53) 2340

品 名	金 額	消費税	合 計
令和元年度	3000		3000 円
合 計	¥3000		¥3000

(現金預り書)

No.

経 理 営業担当



内	現 金
	小 切 手
	手 形
	郵便振込
	訳

令和 元 年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 市政クラブ

伝票番号 14

代表者	経理責任者	支出年月日	区 分
		令和 元 年 9月12日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 <u>資料作成費</u> 資料購入費・事務費
支払先 有限会社 青図社			支 払 金 額 ¥6,480
摘 要（品 名）	数量	単価	金 額
カラーコピー代	1	¥6,480	¥6,480

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

領 収 証

市政クラブ 吉田

様 No.

★ ¥6,480-

内 訳
現金
小切手 /
手 形 /
クレジットカード ()
税抜金額
消費税額等 (8%) ¥83-

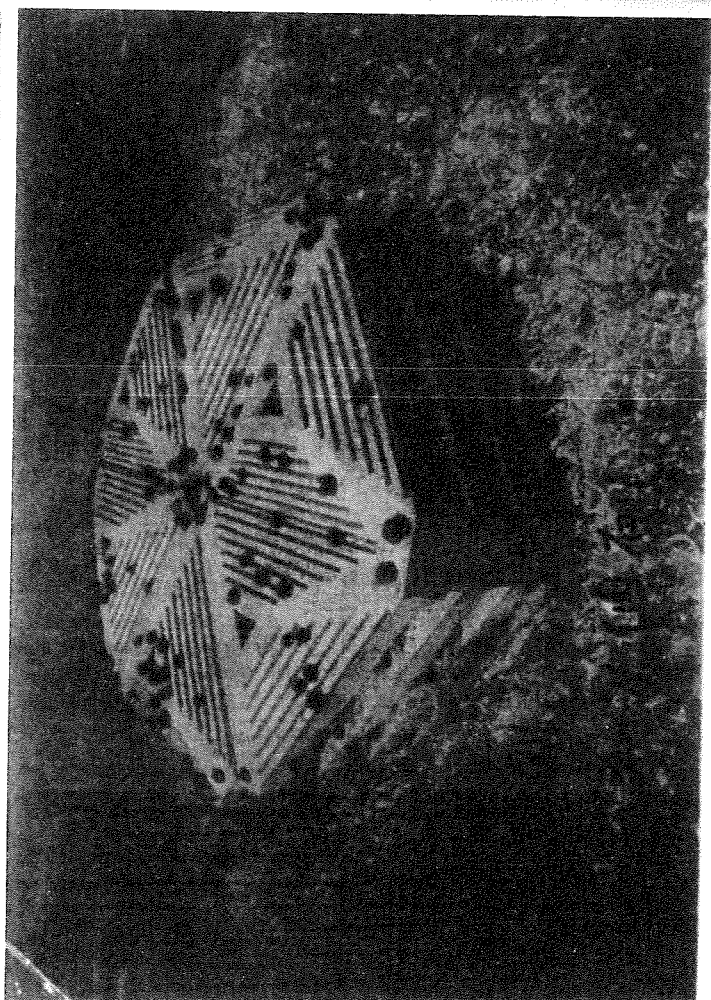
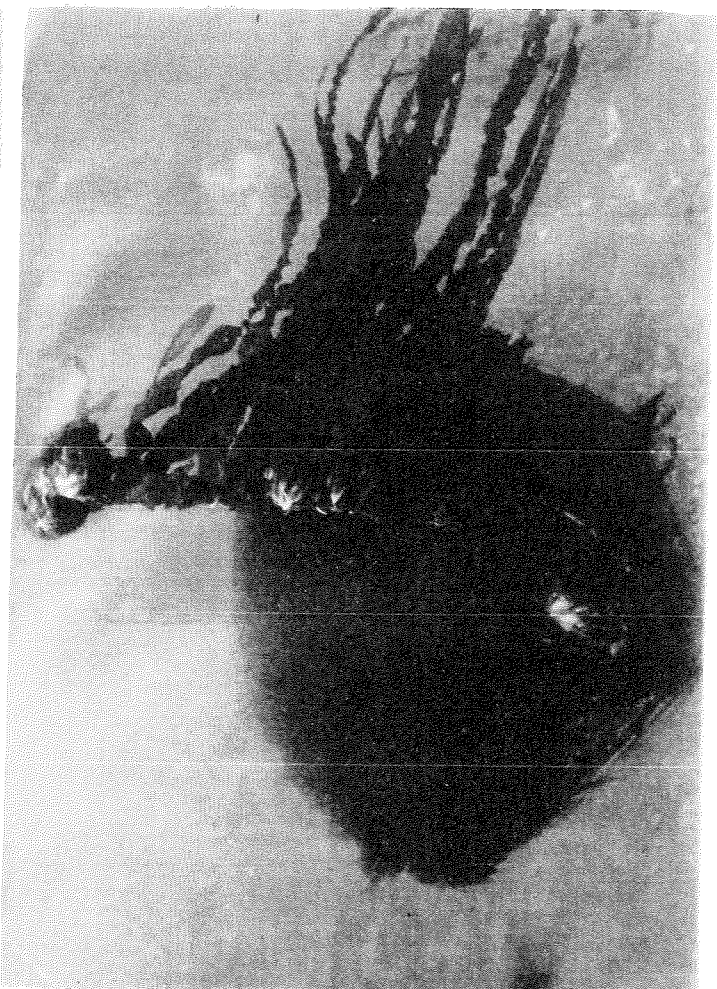
但 カラーコピー代

2019年9月12日 上記正に領収いたしました

収入印紙

函 館 市 乃 木 町 7 番 13 号
有 限 公 司 青 図 社
電話(0133) 51-2817

担当



令和 元 年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 市政クラブ

伝票番号 15

代表者	経理責任者	支出年月日	区 分	
		令和 元 年 9月19日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費・事務費	
支払先			支 払 金 額	
日立キャピタルNBL(株)			¥12,960	
摘 要（品 名）	数量	単価	金 額	
2019年9月分 コピー機リース料	1	¥12,960	¥12,960	

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

※別紙

No. 52791

発行日 2019 年 10 月 3 日

◇ 領 収 証 ◇

市政クラブ 御中

ご契約番号 : 

ご契約者名 : 市政クラブ

¥ 12,960 ー

(税抜き ¥ 12,000 ー)

但 リース料として

2019 年 9 月 19 日 上記金額正に領収いたしました

日立キャピタル NBL 株式会社 

東京都港区西新橋一丁目 3 番 1 号 西新橋スクエア

発 行 部 署 名	検 印	担 当 印
カスタマーサービスセンター		

※金額を訂正したもの及び会社印並びに検印のないものは無効とします。

※再発行は致しません

令和 元 年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 市政クラブ

伝票番号 16

代表者	経理責任者	支出年月日	区 分
		令和 元 年 9月25日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費・資料購入費・ <u>事務費</u>
支払先 株式会社 弘昇機器			支 払 金 額 ¥17,503
摘 要（品名）		数量	単価
複写機リース料（9月分）		1	¥17,503

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

領 収 証

様

No. _____

金 額

7,175.03

内 訳

現 金

小 切 手

手 形

消費税額等（%）

但 令和 年 9月25日

複写機リース料

上記正に領収いたしました

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

株式会社 弘昇機器

TEL (0138) 54-1989

FAX (0138) 54-2682

収入印紙

令和 元年度

政務活動費支出伝票（旅費）

会派名 市政クラブ

伝票番号 17

旅行承認年月日	代 表 者	経理責任者	支払年月日	区 分
令和 元年 09月 01日			令和 元年 10月 08日	・ 調査研究費 ・ 研修費
	氏 名	金 額	受領印	受領年月日
1	遠山 俊一	¥14,000		令和 元年 10月 08日
2	金澤 浩幸	¥14,000		令和 元年 10月 08日
3	藤井 辰吉	¥14,000		令和 元年 10月 08日
4	山口 勝彦	¥14,000		令和 元年 10月 08日
5	中山 治	¥14,000		令和 元年 10月 08日
支払金額合計		¥70,000		
旅行の目的 令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 参加				
用務地 北海道 苫小牧市				
旅 行 の 行 程			旅費の内訳（1人当たり）	
10/10	函館市 → 苫小牧市		宿泊費	¥8,000
10/11	苫小牧市 → 函館市		日当	¥6,000
	函館市・苫小牧市間の移動については 市営バスを利用したため、移動に係る 経費は計上せず。		合 計	¥14,000

領収書等は、別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

(参考様式 別紙 1)

研修会，意見交換会，報告会等の会議（開催・参加）の概要

区 分	内 容	
会議等の名称	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会	
会議等の目的	研修会参加のため	
日 時	令和元年10月10日（木）15:00～16:45	
場 所	北海道 苫小牧市	
出 席 者	出席議員氏名	遠山俊一、金澤浩幸、藤井辰吉 山口勝彦、中山治
	講師等の氏名	柴田 和宏 氏
	その他参加者	129名
支 出 内 訳		金 額
宿泊費	¥8,000 × 5名	¥40,000
日当	¥3,000 × 2日間 × 5名	¥30,000
合 計		¥70,000

No. 094710

領 収 書

(RECEIPT)

発行日
ISSUED

2019/10/11

お名前
NAME

市政クラブ 遠山 俊一

様

領収金額
BALANCE DUE

¥8,000

上記金額には消費税が含まれております
INCLUDING TAX

GRAND HOTEL NEW OJI
グランドホテルニュー大井
株式会社ホテルニュー大井
〒053-0022 苫小牧市宮田4丁目2番1号
TEL.0144-31-3115 FAX.0144-31-3190
E-mail:front313115@oji-gr.com
http://www.newoji.co.jp/

印 紙

No. 094711

領 収 書

(RECEIPT)

発行日
ISSUED

2019/10/11

お名前
NAME

市政クラブ 金澤 浩幸

様

領収金額
BALANCE DUE

¥8,000

上記金額には消費税が含まれております
INCLUDING TAX

GRAND HOTEL NEW OJI
グランドホテルニュー大井
株式会社ホテルニュー大井
〒053-0022 苫小牧市宮田4丁目2番1号
TEL.0144-31-3115 FAX.0144-31-3190
E-mail:front313115@oji-gr.com
http://www.newoji.co.jp/

印 紙

No. 094715

領 収 書

(RECEIPT)

発行日
ISSUED

2019/10/11

お名前
NAME

市政クラブ 藤井 辰吉

様

領収金額
BALANCE DUE

¥8,000

上記金額には消費税が含まれております
INCLUDING TAX

GRAND HOTEL NEW OJI
グランドホテルニュー大井
株式会社ホテルニュー大井
〒053-0022 苫小牧市宮田4丁目2番1号
TEL.0144-31-3115 FAX.0144-31-3190
E-mail:front313115@oji-gr.com
http://www.newoji.co.jp/

印 紙

No. 094716

領 収 書

(RECEIPT)

発行日
ISSUED

2019/10/11

お名前
NAME

市政クラブ 山口 勝彦

様

領収金額
BALANCE DUE

¥8,000

上記金額には消費税が含まれております
INCLUDING TAX

GRAND HOTEL NEW OJI

グランドホテルニュー大井

株式会社ホテルニュー大井

〒053-0022 苫小牧市宮田4丁目8番1号

TEL.0144-31-3115 FAX.0144-31-3190

E-mail:front313115@oji-gr.com

http://www.newoji.co.jp/

印紙

No. 094717

領 収 書

(RECEIPT)

発行日
ISSUED

2019/10/11

お名前
NAME

市政クラブ 中山 治

様

領収金額
BALANCE DUE

¥8,000

上記金額には消費税が含まれております
INCLUDING TAX

GRAND HOTEL NEW OJI

グランドホテルニュー大井

株式会社ホテルニュー大井

〒053-0022 苫小牧市宮田4丁目8番1号

TEL.0144-31-3115 FAX.0144-31-3190

E-mail:front313115@oji-gr.com

http://www.newoji.co.jp/

印紙

令和元年度 北海道士議会議長会 道南支部議員研修会

と き 令和元年10月10日（木）

午後3時～

ところ グランドホテルニュー王子（苫小牧市表町4-3-1）



とまチョップ ©2011 苫小牧市

この研修会は市町村振興宝くじ（通称：サマージャンボ宝くじ）の収益金を活用して実施しております。

研 修 会 日 程

【議員研修会】

午後3時00分～午後4時45分

会場 グランドホテルニュー王子
3階「グランドホール南」

(1) 開 会

司会 苫小牧市議会副議長 藤田 広美

(2) 挨 拶

苫小牧市議会議長 金澤 俊

(3) 祝 辞

苫小牧市長 岩倉 博文 様

(4) 講 演

演題

『そうだ 南極、行こう。』

講師

苫小牧市立勇払小学校
教諭 柴田 和宏 様

(5) 閉 会

講師プロフィール

苫小牧市立勇払小学校

教諭 柴田 和宏 （しばた かずひろ） 様

【略歴】

昭和49年に千葉県にて出生

北海道立苫小牧東高等学校 卒業

北海道教育大学函館校幼稚園教員養成課程 卒業

旭川、登別市内の小学校で勤務

現在は苫小牧市立勇払小学校勤務

【南極歴】

2015年12月～2016年4月 南極観測隊として活動

2016年2月に南極から、日本の子どもたちに「南極授業」として、
衛星回線を使用し、南極の自然や観測隊の任務について紹介する授業を実施

出張報告書

令和 元年 10月 17日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 遠山 俊一



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 10日 ~ 令和 元年 10月 11日 (2日間)
2 用 務 地	北海道 苫小牧市
3 出張概要	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

議員研修会にしては、「似つかわしくない演題だな」と思いながら、何かテーマが隠されているのだろーと思いつつ、興味深く聞かせていただきました。

まずは、第57次南極夏隊に行ったのが小学校の先生であったこと。その先生が教育大学の函館分校の卒業生であったことに驚かされましたが、何よりも認識不足で南極観測隊で、越冬隊という言葉はよく聞きますが、夏隊があることを初めて知りました。その待遇にも大きな差があり越冬隊はカラオケや、楽器の持ち込み、ゲームのやり放題。嗜好品の飲み食べ放題。船に乗り込む前に事前に好きなものの調査まで行われると言います。夏隊は学校給食程度の食事であったとのことでした。

応募するに当たり、教員の派遣のプログラムには体験を南極授業に生かすこと、そのための現地取材を行うこと、授業の計画案を提出すること。広報活動を行うことなどが義務づけられていたようです。

興味深かったのは、滞在中は白夜のため期待をしていたオーロラを見ることができなかったこと。苫小牧の冬より暖かく感じたこと。チリがないために吐く息が白くならないとの事でした。持ち帰られた南極の氷。触ったり水割りなどで試飲もましたが、1万年前の氷、「縄文氷り」として発売できないものかと思いました。

ここでも女性の進出が目立ち全体の4%にまで増えてきているとのことがありました。女性ならではの発想もあり、生ゴミを減らす工夫をしている内、夜食用のおにぎりに、残り物や天かすなどを入れてみたところ、隊員の間で大人気になり「悪魔のおにぎり」とネーミング。SNSなどで取り上げられたことなどから、後日コンビニで同名のおにぎりが発売され大ヒットした、というエピソードを話されました。食事を作る方がどれほど工夫と気遣いをし、それが隊員にとってどれほど楽しみな時間であったのかを垣間見る事ができました。

さて講演のテーマですが最後に話された事ではないのかと。

昭和基地は、「ゴミの山」などと揶揄されるほど廃棄物が散在し、過去に廃棄物の埋め立てや野焼きも行われていたという話を聞いたことがあります。

お話では、夏、冬隊の格差はあるものの食料は1人1トン。30人で30トン。予備も含めて50トン用意すると言います。当然ゴミは出るが、生ゴミに限らず南極の環境を破壊しないためにすべて持ち帰ると話されました。

平成9年「南極地域の環境の保護に関する法律」が施行されたことを受け、出たゴミはすべて持ち帰ることが義務づけられたと言います。法施行以前に残置された30年以上前に埋め立てられた大量の廃棄物を、また、雪上車などの大型廃棄物についても、復路の「しらせ」に積まれており、日本で適正に処理されていることの事でした。

南極大陸は氷で覆われていますが、夏場だけ2%程地表が見えると話されました。その面積が年々大きくなり、生態系にも徐々に影響が見え始めていると言います。地球の温暖化に対する警鐘をなす講演であったのではないのでしょうか。

出張報告書

令和 元年 10月 17日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 金澤 浩幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 10日 ~ 令和 元年 10月 11日 (2日間)
2 用 務 地	北海道 苫小牧市
3 出張概要	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

北海道市議会議長会 道南支部議員研修会

金澤浩幸

所見

今般、南極観測隊として、南極に訪問された、柴田氏の講演を、お聞きし、南極観測隊には、春先の観測隊と通年の観測隊があること、柴田氏は、春先の観測隊として派遣されたが、派遣期間は、12月～4月だが、船での往復に半分以上とられ、現地での活動は、正味2か月であること、自然環境としては、11月末から1か月ほどが、白夜の状態であり、春先の観測隊では、オーロラは発生せず、又我々が思っている極寒の状態ではないこと、観測隊が南極に入ることにより、平成9年以前は、ゴミの処分が充分ではなかった為、ゴミの処理問題が持ち上がっていること、生活環境としては、通年の観測隊と比較すると、食料等は、通年の観測隊が優先であり、短期の観測隊とは違いがある等、我々議員が、南極大陸に抱いているイメージとは、かなりの違いがあり、又、経験できるはずも無い南極観測隊の実体験をお聞きし、改めて我々が住んでいる、函館、北海道、日本の常識では計り知れないことが地球ではあることが、確認できた研修となりました。

出張報告書

令和 元年 10月 17日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 藤井 辰吉



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 10日 ~ 令和 元年 10月 11日 (2日間)
2 用 務 地	北海道 苫小牧市
3 出張概要	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

日時：2019年10月10日（木）15：00

会場：グランドホテルニュー王子（苫小牧市表町4-3-1）

演題：「そうだ 南極、行こう。」

講師：苫小牧市立勇払小学校 教諭 柴田和宏（しばたかずひろ）氏

講師は2015年12月から2016年04月まで南極観測隊として活動。2016年2月に南極から、日本の子どもたちに「南極授業」として、衛星回線を使用し、南極の自然や観測隊の任務について紹介する授業を実施。

南極観測隊に応募に至った動機は、幼少のときに函館でみた観測艇「しらせ」に感動したことを記憶していたことがきっかけ。

南極に滞在中に教員派遣南極プログラムというものを実施していたことも説明した。そのプログラムによって派遣され、結果を持ち帰り、その後の講演活動に活かし、南極のことを広く子供や大人に周知する活動をしていた。

ここからはしばらく、南極観測隊として活動していた期間に、実際に南極でどのような活動を繰り広げてきたかを紹介していた。

砕氷艇の機能を備えていて、自船の重みで氷を砕くこと。その際、砕きながら進み続けることはできないので、200mバックしてまた前進して砕くという動作を繰り返すこと。このラミングという手法を30回、40回ほどでようやく南極に到着できたこと。

また、南極に行く前に南極に抱いていたイメージと、実際に南極で過ごすようになってから感じたギャップについても話をしていた。

環境的なイメージのギャップでは、まず、寒くないという現実。行く時期によるものではあるが、講師が南極にいた時期は1ヶ月半、いっさい太陽が沈まないため、どこに行くにもようするに「日帰り」であり、しかも暖かかったという。ちなみに南極大陸は日本国土の約37倍あり、気温としてはドームAという地点が マイナス93.2度の最低気温を記録しているという。

昭和基地から南極点までは2300m離れているため、滞在中一度も南極点に行けなかったという。時間的には4カ月くらいかかるらしく、もし仮に南極点を目指して基地を出発すると、戻ってきたころには観測船が居なくなってしまうという。

越冬隊員は1年間、絶対に帰れない。誰も来ない。何も届かない。という環境下で暮らす。

特筆すべきは滞在中の環境衛生への注意。なにせ、ゴミ回収などが来る環境ではないため、限られた空間に汚物や廃棄物を蓄積しておかなければならない。

平成9年まで廃棄物の取り決めがなかったので、それまでの間の廃棄物が存在する。

現在は、汚水処理、廃棄物処理の担当者が一人いる。

平成9年までに廃棄されたであろうゴミを発見した場合は、それらも拾って、ゴミはすべて日本に持ち帰る。ちなみに、基地ではゴミは17種類以上に分別する決まりになっている。なるべくゴミを増やさないよう各々が工夫している。

などなど、南極観測隊としての経験を縷々お話しになっていた。これらの話が直接都市の議会にどのように関連付けられるのかわからず、なぜ議長会研修会で講和のテーマになったのか、最後までよく読み解けませんでした。経験談からかろうじて読み解くとするならば、迅速に行動、柔軟に発送、チャンスは逃さずにやるというメッセージであったように思われる。

出張報告書

令和 元年 10月 17日

市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 山口 勝彦



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 10日 ~ 令和 元年 10月 11日 (2日間)
2 用 務 地	北海道 苫小牧市
3 出張概要	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

令和元年度北海道市議会議長会・道南支部議員研修会報告書

と き 令和元年 10 月 10 日 木曜日 午後 3 時～
ところ グランドホテルニュー王子 苫小牧市表町 4-3-1

この度、議員として、初の研修参加で学んだ事を自身なりに報告申し上げます。
苫小牧市議会藤田広美副議長様の司会で開会し、苫小牧市議会金沢俊議長様の挨拶に続き、苫小牧市長岩倉博文様より祝辞を頂き、その後講演があり演題は、「そうだ南極、行こう。」と、苫小牧市立勇払小学校教諭であります柴田和宏様が、2015 年 12 月～2016 年 4 月までの間、南極観測隊として、2016 年 2 月に南極から、日本の子ども達に「南極授業」として、衛星回線を使用しての、「南極の自然や観測隊の任務について」紹介する授業を実施、現在は子供達や広く体験談を講演活動もしている方です。

講師の柴田先生は南極観測隊として 2 度目の出願で採用され、自身の夢が叶い日本より空路オーストラリアへそこから航路荒海を南極へと南極観測船しらせで、昭和基地へと目指します。講演会場には、現地使用の防寒着上下と防寒靴が展示しておりました。柴田先生滞在期間は南極の気候は比較的暖かだったようで、でも南極です。南極へ行って一番の楽しみにしていたオーロラが、白夜で見る事が一度もなかった事がとても残念だったと言っておりました。

越冬隊の冬隊と違い、短い期間の夏隊といい比較的穏やかな時期の体験だったとの説明でしたが、越冬隊の過酷な日々の観測業務事例も説明に有り大変な任務だとお聞きしました。そこには厳しい規則が有り、たとえば「南極地域の環境保護に関する法律」として下記の通り説明がありました。

1. 生きた生物の持ち込み禁止
2. 鉱物資源活動の禁止
3. 南極哺乳類及び南極鳥類の捕獲又は殺傷の禁止
4. 在来植物の生育・生息状態及び生息環境の保護
5. 廃棄物の抑制と制限

特に、廃棄物となる物は「すべて日本に持ち帰る」17種類以上の分別に区分せれ、処理するとお聞きました。又、尿水はポリ容器に済ませその後回収し浄化便槽へと自分たちで対応するなど、限られた食料の食品ロスに対しても徹底した専門調理師の渡辺敦子さんが工夫した食材として活用しているなど過酷な環境で、助け合い、任務遂行する為には、第一次南極越冬隊西堀榮三郎氏の「とにかくやってみなはれ、やる前からあきらめる奴は、一番つまらん人間だ。」と長年隊員の励みとなる言葉として、語り継がれているスライドにて内容を振り返り感動させられました。

又、「南極観測隊の心構え」として、スライドで下記の5つの規則の、説明がありました。

1. 心身ともに健康であること
2. どのような環境に置かれても、責任ある行動をとれること
3. 隊長の指示及び、諸規則を遵守できること
4. 他部門への支援や共同作業などに積極的に協力できること
5. 想定外の問題が発生した場合に、迅速かつ柔軟に対応できること

なかなか、理解できても実践では難しい事ですが、食料は限られ、助け合う事がどんなに重要か、もし、単独行動をとる一人の違反者が居た場合、すべての隊員の命に係わる事態を秘めている環境での、貴重な体験、経験の講演でした。

さすが、小学校教諭であり、丁寧でユニークで笑いが有ってわかりやすい、公演で良かったです。

講演会場へは 10000 年前の南極の氷も展示してあり、初めて拝見しました。

柴田先生のお話では、本当は飲食に使用してはいけないみたいなのですが、その後の交流会では、限られた量でしたが、皆さんに振舞われ、水割りに入れたりして試飲をさせて頂きました。

私も、試飲させて頂きましたが、感じが今一つ、わかりませんでした、同席の各自治体の議員さんと、名刺交換し、氷の話題から同席議員のみなさんと溶け込み各自治体に置かれている様々な問題などを話し合っとても意義の有った研修会でした。

当日は、会場グラントホテルニュー王子にて、宿泊し翌朝8時50分参加議員の皆さんとバスにて、苫小牧市を出発し午後1時30分ころ函館市役所へ無事事故も無く到着しました。

元年10月11日
市政クラブ 山口 勝彦

出張報告書

令和 元年 10月 17日



市政クラブ

会長 金澤 浩幸 様

出張者氏名 中山 治

下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和 元年 10月 10日 ~ 令和 元年 10月 11日 (2日間)
2 用 務 地	北海道 苫小牧市
3 出張概要	令和元年度 北海道市議会議長会 道南支部議員研修会 に参加
4 所 見	別紙のとおり
備 考	

北海道市議会議長会 道南支部議員研修会

とき：令和元年10月10日(木)から11日(金)

場所：グランドホテルニュー王子（苫小牧市表町4-3-1）

講師：苫小牧市立勇払小学校 教諭 柴田和宏 様

所見

この度は、議員になり初の研修会に参加させていただきました。

バスでの移動ということで、社内においても他会派の皆様とも交流を図る機会となりました。苫小牧での研修会では、苫小牧勇払小学校の柴田和宏先生から第57次南極地域観測隊の参加経験をもとに観測隊の任務を通じて学んだ知見をユーモアを交えたご講演でした。

日本の南極観測隊は大きく分けて2つの部隊、夏隊と越冬隊がいることがわかりました。

夏に仕事するのが夏隊と冬を超えるのが越冬隊であることがわかりました。

日本の南極観測は、1957年に始まり昭和基地をベースに、オーロラの観測や厚い氷床の掘削、鉱物の調査や隕石の発見、動植物の調査など、幅広い活動をされているということで観測を行うのは、夏の間3ヶ月間南極に滞在する夏隊と、1年を通して南極に滞在する越冬隊があり、毎年11月、砕氷船「しらせ」で日本を出発され12月に南極に到着し、短い夏の間さまざまな仕事をしていることを知りました。

夏隊は、この短い夏を利用して「しらせ」で昭和基地に大量の物資と人員を運び、短期集中で仕事して、冬が来る前に昭和基地を離れるのが夏隊の役目だと割りました。

一方越冬隊は、まず、日本から昭和基地までは、オーストラリアまで空路で移動した後、「しらせ」で1カ月半かけて近づけるところまで航行し、さらに基地までヘリで飛んで行くことがわかりました。

つまり、7月から8月の冬の間の基地を保守するためには、夏の間活動する夏隊と一緒に南極入りし、翌年の夏隊の帰国で南極を離れる、14カ月にわたる滞在が必要となる。往復の3カ月を加えると、ほぼ1年半、日本には何があっても帰れないということで、相当な覚悟をもっていなければ南極隊員としてできない役目だと知らされました。

また柴田氏の南極での生活の様子等のお話を聞き、印象にのこったのは、食材を無駄にしないこと。そこから生まれたのが、悪魔のおにぎりです。今ではローソンの人気商品ですが「発祥」の地は南極だったということに驚きました。南極地域観測隊・調理隊員だった渡貫淳子さんが、残り物の天かすとあおさノリを使った隊員の夜食用おにぎりをテレビ番組で紹介。それがSNSで話題になり、ローソンが商品化になったということを知りました。

南極では、ゴミを極力出さないことに努めており、夕飯の残りの食材を使いウということをしており作った天ぷらの天かすを活用し、おにぎりを作ったとのことでした。そこで真夜

中に食べるにはカロリーが高過ぎる、でもおいしいから食べたい。「このおにぎり、悪魔ですね」とある隊員が口走ったのが「悪魔のおにぎり」命名のきっかけだったということです。夜な夜な除雪作業にいそしんでいた隊員にとって、このおにぎりを食べるのが「小さな幸せ」だったそうであります。

限られた食料しかない状態である南極だからこそ、生まれたものであり、食材を無駄にしない、ロスを出さないということは、日常の中でも改めて認識することが大切であると感じました。

そして、南極隊員を目指す方は、柴田先生も含め、高い志をもって挑戦しようとしているのが印象的でした。

国家事業に携わる南極観測隊員に選ばれるのは、相当大変な事なんだろうと思いました。選ばれる方は、自分の仕事を一生懸命やってきた人ばかりだと感じましさせていただきました。電気の工事をまじめに積み重ねてきた電気屋さん、人の命を救ってきたお医者さん、人の喜びのために家を建て続けてきた大工さん。学者や研究者になれなくても、自分の仕事と真剣に向き合ってきた人であれば、その延長線上にこういうチャンスがめぐってくる可能性があるんだと、そこでチャンスがめぐってきて、物事をチャンスだと思うか、面倒と思うかという分かれ道があると思いますが、その時「チャンスなんだ」と思うことが大事だと思いました。

仕事に関して、今の自分自身にも言えることなのですが、困難と思う仕事があったとしても、こんなの役に立つんだろうかと思いつながらやるのではなくて、誰もがやったことない仕事だからやってみようとか、もし私がやってみようと思ったら面白いよねって思いながら仕事に励みたいと考えています。そうすると、いつのまにか新たなチャレンジ、そして経験を繰り返して、それらをプラスに変えていくというストーリーができるんじゃないかなと思います。

また、南極隊員はそれぞれの持ち場がありながらも、サポートして助け合って活動をされていることに感銘を受けました。一人ではできないこともみんなで、共通認識をもって協力していく大切さを学びました。

柴田先生の「夢は出会うもの」人に出会うこと。そのお言葉通りだと思います。

人と出会い、お話をし、分かり合って、私も市議をしていて、そこが大切だと心して今後の活動に生かしていける研修会でした。

また、議員間の交流にもつながった有意義な研修となりました。

市政クラブ

中山 治